

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	5-2-3		事業名	ウインタースポーツミュージアム体験装置・展示品リニューアル
担当	観光文化局スポーツ部施設課 猪股 TEL211-3045			
全体計画				
事業内容	平成22年にオープン10周年を迎える札幌ウインタースポーツミュージアムについて、ウインタースポーツの情報発信機能・疑似体験機能を強化するため、ウインタースポーツ競技団体やメダリスト、競技用具メーカーなどの協働による展示品の収集・更新と、ジャンプシミュレーター等の大型体験装置の検討を行う。		＜年度別の事業内容＞	
			平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広告・協賛の手法の検討</li> <li>・展示品・体験装置の検討</li> <li>・観覧者のニーズの把握</li> </ul>
			平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新用具展示更新(以後毎年)</li> <li>・その他の展示物収集(以後毎年)</li> <li>・コーナーリニューアル設計</li> <li>・ジャンプシミュレーター設計</li> </ul>
			平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーナーリニューアル工事</li> <li>・ジャンプシミュレーター改修工事</li> </ul>
事業内容・量・場	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	(対角線)		(対角線)	
事業内容・規模・件数等	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(決算)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック映像使用权の更新</li> <li>・展示用備品等の購入</li> <li>・シアター映像装置の更新</li> <li>・地上デジタル放送対応整備</li> <li>・企業、競技団体の協賛等による展示品の更新</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画提案コンペ方式による体験装置・展示等の更新</li> <li>・アジア冬季競技大会、ユニバーシアード冬季競技大会、FISノルディック世界選手権札幌大会などの国際大会の展示や企画展示コーナーの新設</li> <li>・大倉山ジャンプ競技場1/50レリーフ新規制作展示</li> <li>・大倉山ジャンプ競技場でのジャンプ体験装置導入</li> <li>・クロスカントリー体験装置の更新</li> <li>・ライブラリーに情報検索パソコン、大型モニター設置</li> </ul>	

## 平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	5-2-3			事業名	ウインタースポーツミュージアム体験装置・展示品リニューアル			
達成目標の状況								
項 目			18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (実 績)	22年度末 (実 績)	22年度末 (目 標)
観覧者数(※H22.11.1～H23.2.5 リニューアル工事のため休館)			121,946人	108,922人	99,114人	86,694人	64,145人	133,800人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)								
<p>■市民との連携、市民参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民等からウインタースポーツに関わる各種展示品等の寄贈あり。</li> </ul> <p>■企業等との連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[資金協力] 最新用具等の展示品の協賛。競技団体等に競技用具・競技映像等の提供・借用等の協力を依頼。</li> <li>[人材協力] (該当なし)</li> <li>[情報協力] (該当なし)</li> <li>[その他の協力] (該当なし)</li> </ul> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種競技団体等の協力を得るため、関連の展示スペース等を確保する。</li> </ul>								
評 価 ( 成 果 )					課 題			
<p>・平成12年にオープンして以来、展示の固定化、体験機器の老朽化による故障が年々増えたことに伴い、来場者が年々減少していき、抜本的な改善が必要であったところ、平成22年にリニューアルを行い、展示の固定化、体験機器の老朽化が解消された。</p>					<p>・大倉山ジャンプ競技場への来場者数が年間35万人程度いるなか、ミュージアムへの来場者数は6万4千人程度に留まっている。大倉山ジャンプ競技場来場者をミュージアムへ誘導するためのサイン・導線の充実を図るほか、施設全体の活性化を図る必要がある。</p>			
<p>・リニューアル後の大型体験装置に関する更新・改修について中長期の計画を立てる。</p> <p>・展示コーナーを一定のサイクルで更新するため中長期の計画を立てる。</p> <p>・最新情報・用具更新についてはできる限り費用を抑えながら更新頻度を上げることができるよう関係競技団体やメーカーとの連携を強化する。</p> <p>・指定管理者による施設の活用として、特別展、企画展や総合学習の場などを提供していく。</p>								

## 平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		5-2-3			事業名	ウインタースポーツミュージアム体験装置・展示品リニューアル				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	0	3,700	27,800	100,500	132,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他の財源	0	0	0	0	0				
予算	事業費	0	0	20,000	120,000	140,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他の財源	0	0	20,000	120,000	140,000				
実績	事業費	0	0	18,284	119,700	137,984				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他の財源	0	0	0	119,700	119,700				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					104.5%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
<p>[19年度]</p> <p>[20年度]</p> <p>展示品更新のための備品購入を予定していたが、予算化されなかったことにより、更新は次年度以降になるなど遅れが出ている。また、当初の予定年度に事業を実施できないことにより、計画期間後半に事業が集中することとなる。</p> <p>[21年度]</p> <p>当初計画はコーナーリニューアル及びジャンプシミュレーターの設計を実施するとしたが、H21年度末をもって一部映像使用権が満了となるためH21年度に更新することとした。また、使用権の更新費用を抑えたことによる差額により、シアター映像装置の更新及び地上デジタル放送対応整備を実施した。</p> <p>[22年度]</p> <p>日本宝くじ協会の助成金を活用することにより、企業等の協賛の手法を用いないこととなった。</p>										